



社会科通信

NO. 16

発行者 第3学年社会科担当 安永

令和2年11月9日発行

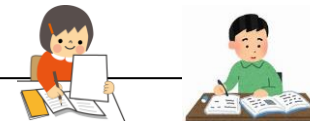
11月2日(月)に「新聞フォーラム」を開催しました。講師に朝日新聞編集委員の高橋純子氏をお招きし、新聞が作られるまでの過程や裏話、新聞やそれに携わる新聞記者の役割などについて、普段は聞けないような貴重なお話を伺い、たくさんの方の話を学んだことと思います。

特に、「政治」や「社会」に対する見方や、今回の大きなテーマでした「メディアリテラシー」については、皆さん自身、これまで持っていた考えに大きな影響や刺激を与えてくれたのではないのでしょうか。これから新聞を読む際には、今回のことを思い出して、新聞社や新聞記者の思いや苦勞、努力を思い描きながら、より深く読んでみてください。皆さんが書かれた感想の一部を紹介します。



【「新聞フォーラム」の感想】

- ・講演を聴いて、新聞の一記事を書くのにも、たくさんの方のチェックがあり、大変で、朝刊や夕刊があるので、そこで働いている人がすごく忙しいことを知って、新聞を読もうかなと思いました。(男子)
- ・時間と手間を掛けて、ここまで多くの人に届けるのは、政府にとっては国民の意見の代表、私達にとっては政策に対する「問い」や意見を自由に持ち、主張する力を身につけさせるためにあると思いました。とても面白かったです。(女子)
- ・今までメディアに対してマイナスイメージがありました。いろんな政策にも否定的な意見・報道が多かったからです。しかし、そのイメージは変わりました。あれは1つの意見として報道しているだけで、しっかりと取材などもしているということに気がきました。だからこそ、「これは正しい!」と思うのではなく、様々な人の意見を聞くことが大切だと思いました。(男子)
- ・新聞は難しく読めないというイメージから、新聞記者が死に物狂いでつかみ取った記事を、校閲などが磨きをかける。それを超スピードでやらなければいけないけれど、それをやりきれるのが新聞社というのがすごいと思った。(男子)
- ・物事を多角的に捉えるということが、メディアリテラシーには重要だと感じた。メディアはものによって取り上げる内容や主張が異なるため、どれを手にするかによって、その物事の捉え方は変わってしまう。なので、様々な情報に触れ、検討する。これを繰り返すことは重要だなと感じた。何度も繰り返せば、次第に情報をくみ取ることに慣れ、賢明な判断が出来るようになると思うし、社会で生きていく上で、その社会について考えないというのは、必ず必要なので、心掛けたいと思う。(男子)
- ・多くの情報が一度に見えてしまうので、見ようと思っていた情報以外のものまで、知ることが出来るので、散歩をすることで、色々な場所の土地勘がつかのんだなと思いました。(女子)
- ・新聞に対して興味なかったけど、新聞ならではのことや新聞の成り行きが知れて面白かった。「選挙で選ばれた人だからしょうがないな」と思っていたけど、国民から声を上げることは大切で、反対の4割を納得させる政治を行わないといけないことに、新しい価値観だなと思った。色々な視点の意見や未来に必要なものが分かった。(女子)
- ・最近の人は、政治に対して意見を持っていないことも改めて分かったし、意見を持っていても、大人がそれを止めているなど、色々な今の現状を聞くことが出来て、これからメディアを見る眼が変わるし、ニュースを見た時に感じ方が変わったり、成長した見方が出来たらなと思いました。(女子)
- ・新聞を書くとき、「多様性」というものを大切にしていることが分かった。自分で疑問や自分の意見についてよく考える。自分一人で多角的に考えて、「きっと～なんだろうな」と考えてみる。それから、何人かで話した方が、より考えは深まるし、自分に力がつく。(女子)



【「新聞フォーラム」の感想】

- ・これからの人生で、政治について色々考えることがあると思うけど、政治というのは自分達で変えるんだという意識を持って、投票とかしたいと思います。(女子)
- ・自分はずいぶん前から政治に対して興味を持っていて、色々な面から、角度から見ていたつもりだったけど、それでもまだまだ見れてなかったりすることもあったし、新聞の一面を書くだけで、何人もの人々の手が加わっており、かなりの編集がしてあるということを知って驚きました。(男子)
- ・自分から見たら、考えを植え付けさせるように見える記事も、しっかり国民に情報を伝えようと思って書いた記事なので、そのまま受けとるのではなく、何を伝えなかったのかを読み取るのが必要だと思った。(男子)
- ・僕は少し前までは、新聞やニュースといったものは、社会で起きていることを知るためだけのものだと思ってたけど、この話を聞いて、考えるための材料のようなものだとことが分かった。「watch dog」の話聞いて、過剰に批判しているのにも理由があることが分かった。記事もすごく苦勞して書いていることが分かったし、これまでほとんど読んだことはなかったけど、読むようにしようかなと思った。(男子)
- ・記者ってすごいなと思いました。自分の考えは「こうだ!」が、たくさんの方の意見を取材することによって考え方が変わることがすごいなと思いました。「違和感を無かったことにしない」。本当にそうだと思います。世の中、正論風に言っていますが、「何がおかしい」。そう私も思ったことがあります。「それは違う」と、立ち上がっていくことが大切だと思いました。(女子)
- ・一番関心を持ったのは、「有権者ではなく主権者だ」ということ。選挙で選んで終わりではなく、選挙が終わってからも政治を見ていく、あくまで国を作るのは国民だということを忘れずにいたい。私達はもうすぐ選挙の投票が出来るようになる。何も知らない、興味が無いといったことにならないためにも、日頃から政治を知ることは大切だと思った。(女子)
- ・「問い」は自分の違和感や疑問から生まれる。すぐに答えを見つける必要はないが、その「問い」を決して忘れてはいけない。忘れず続けると、いつか答えが分かってくる。しかし、その答えが納得のいくものでなければ、その時、声を上げなくてはならない。だから、私達は新聞を読み、「問い」を見つけ、探求し、声を上げることで、社会をより良く出来る一員として、政治について知る必要があると学んだ。(女子)
- ・最近の問題に関して、いろいろ意見を聞いていると、私の意見が変わったりしました。どの話も、すごく納得できるものばかりで、自分の意見を持っていることはすごいと思いました。新しくいろいろなことについて、詳しく、分かりやすく学ぶことが出来ました。(女子)
- ・生徒や先生が問いかけた問題にも、1つ1つ丁寧に答えてくださり、政治についてもっと知りたいなと思うきっかけとなりました。(女子)
- ・取材のあり方も、時代によって変化しているということに強い関心を覚えました。(女子)
- ・ネットニュースも過剰な書き方があり、僕も踊らされていたのかなと思った。「新聞は1つの判断材料」ということや、「1つ自分の柱となるものを基準とし、他のものに触れていくことで、メディアリテラシーがついてくる」という話は、とても関心のいくものだった。(男子)
- ・今、私自身にも世界にも固定概念というものがある中で、高橋さんみたいな視野が広く、新しい面白い考え方をお持ちの方と出会えて、話を聞いて良かったです。新聞にも興味がなかったし、「ウソちゃうん?」とか思っていました。たくさんの方の努力や、調べ込みがあって成り立っているものなのだなと思ったので、興味が湧きました。(女子)
- ・自分の価値観と似ているところが多くて共感することが多かった。これからの未来、自分達がどのように主権者になる必要があるのか具体的に知れた。(女子)
- ・ただメディアについて学ぶだけではなく、人生において、自分の信念を持つことの大切さや、今、社会でどのようなことが必要とされているのかなども教えてもらえたように思えたので、すごく良い時間になりました。(男子)
- ・高橋さんは夢に対する思いが強く、はじめ説明された時には、夢が見つからない自分に強く響きました。(男子)
- ・高橋さんは親から言われた道を進むのではなく、たとえ向かい風でも、自分が信じた道を少しずつ進んで、今は新聞記者としての地位を築いていて、すごいと思った。僕だったら親が言う道、楽な方へ進んでしまうと思うから、しっかりと自分の意思を尊重して、社会人になりたいと思いました。(男子)